

## ■竹林（マダケ）（St. 20）

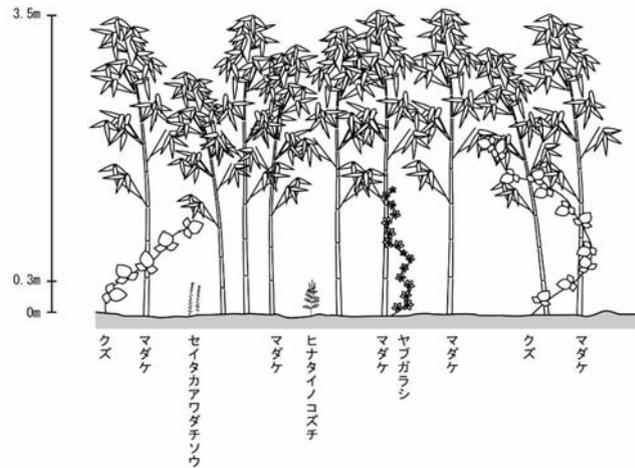
竹林由来のマダケにより構成される群落である。調査範囲においては、実施区域の周辺地域の相模川の河川敷に小規模な群落が成立していた。

### 【St.20】

調査地点は、実施区域の周辺地域の相模川の河川敷に成立した群落である。

秋季調査時は、群落高 3.5m、植被率 80%でマダケが優占し、低木層にはマダケのほかにヤブガラシ、クズ等が生育していた。草本層は植被率が5%と低く、ヒナタイノコズチ、セイタカアワダチソウ等がわずかにみられる程度であった。

なお、春季調査及び夏季調査では、秋季調査と比較して階層ごとの植被率や種構成に若干の変化はみられるが、年間を通して大きな変化はみられなかった。



St. 20 の模式断面（秋季調査）

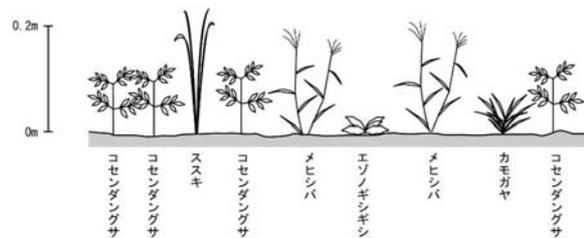
## ■人工草地（St. 21）

相模川沿いの堤防周辺等、定期的な草刈が実施された場所に成立した群落である。調査範囲においては、相模川沿いの堤防法面、河川敷のグランド周辺等の人為的な攪乱が起こる場所に広く分布していた。

### 【St.21】

調査地点は、実施区域の周辺地域の相模川堤防法面に成立した低茎草本群落である。

群落高は 0.2m、植被率は 70%でコセングサ、メヒシバ、カモガヤ、ススキ等の多数の種類が確認された。除草作業が実施された後であり、生育していた植物は低く刈り込まれている状態であった。



St. 21 の模式断面（秋季調査）

■社寺林・緑の多い住宅地 (St. 22)

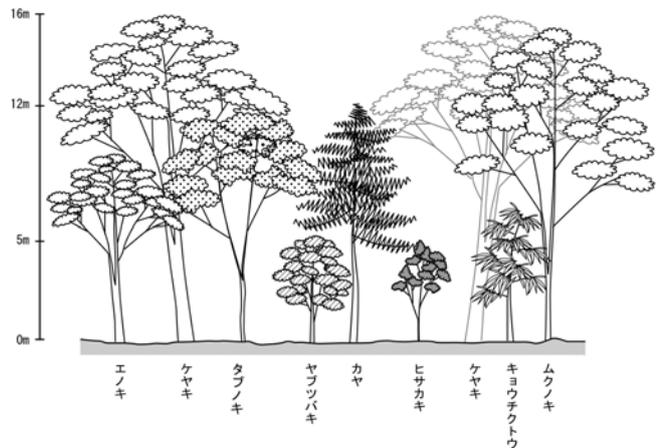
大きな庭木や生垣等緑被率が高い住宅や、大径木がある神社・寺院等に成立した小規模な樹林環境で、調査範囲の多くを占める市街地のなかにみられた。

【St.22】

調査地点は、実施区域の周辺地域にある寄木神社の社寺林である。

秋季調査時は、高木層に樹高 16m のケヤキが優占していた。このほか、亜高木層にカヤ、タブノキ、エノキ等、低木層にヒサカキ、キョウチクトウ、ヤブツバキ等が生育していた。林床は掃き清められているために、草本層の被度は低い状態にあった。

なお、夏季調査時も、秋季調査時とほぼ同様の状況が認められた。



St. 22 の模式断面 (秋季調査)

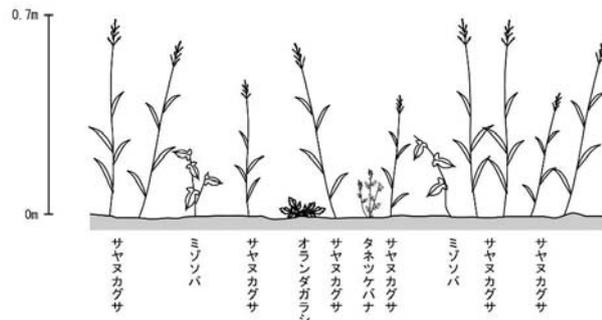
■幹線水路内植生—湿生草本群落— (St. 23、St. 24)

水路内に土砂が堆積した場所に生育する湿生植物や沈水植物により成立した群落である。調査範囲においては、排水路等の比較的規模の大きな水路に分布していた。

【St.23】

調査地点は、実施区域東側の農耕地内を流れる幹線水路内に成立した湿生草本群落である。

群落高は 0.7m、被度は 100% でサヤヌカグサが優占していた。このほか、ミゾソバ、オランダガラシ、タネツケバナ等の湿った場所に生育する植物が生育していた。

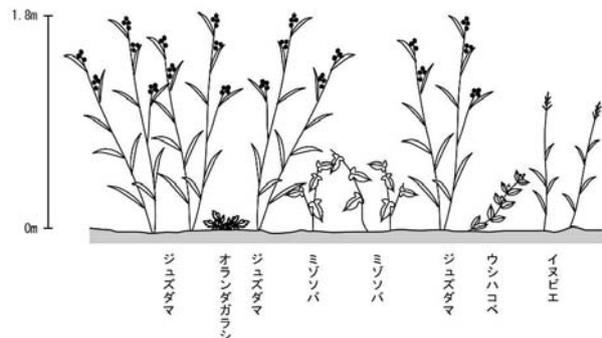


St. 23 の模式断面 (秋季調査)

【St.24】

調査地点は、実施区域周辺地域の南側の市街地を流れる幹線水路内に成立した湿生草本群落である。

群落高は 1.8m、被度は 75% でジュズダマが優占していた。このほか、ミゾソバ、オランダガラシ、イヌビエ、ウシハコベ等が生育していた。



St. 24 の模式断面 (秋季調査)

## ウ. 潜在自然植生の状況

潜在自然植生とその成立環境は表 5.2.8.10 に、潜在自然植生群落別優占面積は表 5.2.8.11 に示すとおりである。また、潜在自然植生を図 5.2.8.6 に示す。

潜在自然植生とは、「生態学事典」(昭和 58 年、沼田真編)によると、「今、人間の影響を一切停止したとき、その立地に生じると判定される自然植生」と定義されている。

「神奈川県潜在自然植生」(昭和 51 年、神奈川県教育委員会)及び現地調査によると、調査範囲の水田地帯及び相模川・笠張川沿いの低地以外の陸域は、イノデ-タブノキ群集・ケヤキ亜群集が成立すると考えられ、調査範囲の 60%以上を占めていた。

調査範囲の休耕田雑草群落及び水田として利用されている立地は、ハンノキ群落が成立すると考えられ、調査範囲の 30%以上を占めていた。そのほかの群落としては、調査範囲の西側を流れる笠張川に成立するマコモ群落やミクリ群落、調査範囲の幹線水路内に散在する湿生草本群落や沈水植物群落は、セリ-クサヨシ群集が成立すると考えられる。

また、相模川沿いの低地を中心に、調査範囲に散在するヤナギタデ群落、ヨシ群落、オギ群落は、オギ-ヨシ群団が成立すると考えられる。

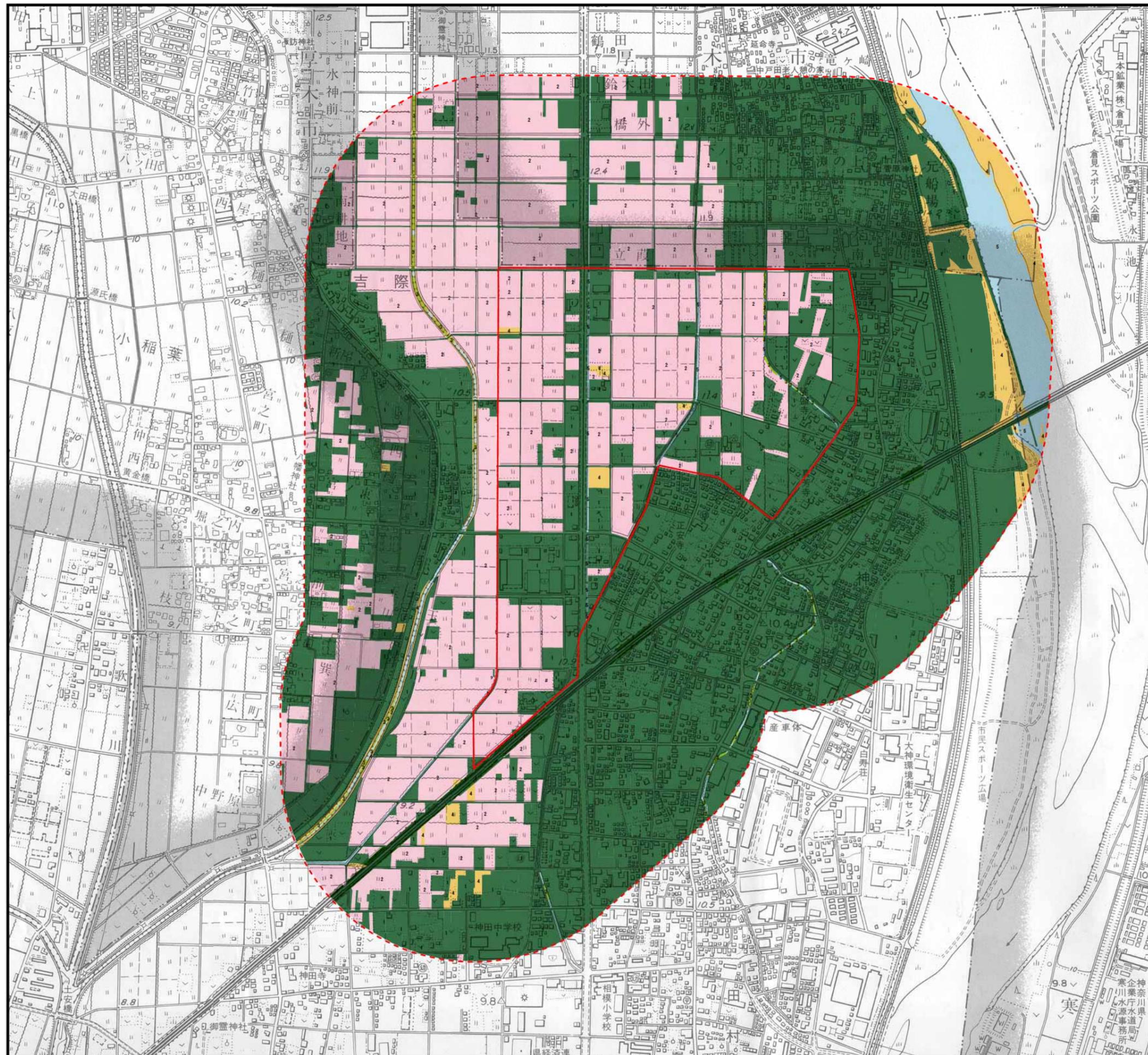
表 5.2.8.10 潜在自然植生と成立環境

潜在自然植生		成立環境	該当する現存植生
1	イノデ-タブノキ群集・ケヤキ亜群集	河川の沖積地で、土壌中の空気含有量が高い、適湿地	コセンダングサ群落、メヒシバ-エノコログサ群落、ススキ群落、メダケ群落、クズ群落、エノキ群落、竹林(マダケ)、植栽樹種群、果樹園、畑地、人工草地、公園・グラウンド、住宅・構造物、社寺林・緑の多い住宅地、道路・新幹線
2	ハンノキ群落	河川が形成した沖積地のうち、特に後背低湿地	休耕田雑草群落、水田
3	セリ-クサヨシ群集	河辺の粘土質の堆積地	マコモ群落、ミクリ群落、湿生草本群落、沈水植物群落
4	オギ-ヨシ群団	河畔沖積低地	ヤナギタデ群落、ヨシ群落、オギ群落

表 5.2.8.11 潜在自然植生群落別優占面積

潜在自然植生	調査範囲		実施区域		実施区域の周辺地域	
	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
1 イノデ-タブ群集・ケヤキ亜群集	221.15	62.77	30.27	44.00	190.88	67.22
2 ハンノキ群落	110.39	31.33	36.97	53.73	73.42	26.03
3 セリ-クサヨシ群集、ツルヨシ群集	0.82	0.23	0.11	0.16	0.71	0.25
4 オギ-ヨシ群団	9.43	2.68	0.56	0.82	8.87	3.12
5 開放水面	10.50	2.98	0.89	1.29	9.61	3.38
合計	352.29	100	68.80	100	283.49	100

注) 表中の数値は四捨五入しているため、合計値が一致しない場合がある。



凡 例

- 実施区域
- 調査範囲

1	イノデータブノキ群集・ケヤキ亜群集
2	ハンノキ群集
3	セリークサヨシ群集
4	オギーヨシ群団
5	開放水面

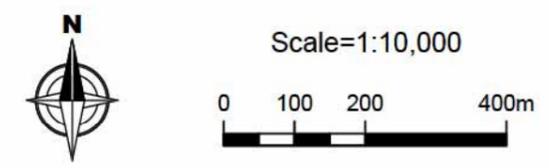


図5.2.8.6  
潜在自然植生図

#### (4) 重要な植物種・植物群落の生育状況

##### ① 調査方法

調査範囲における重要な植物種・植物群落の確認地点、生育状況について、調査した。

調査方法は「(2) 植物相」及び「(3) ア. 現存植生」の現地調査結果の整理により、表 5.2.8.12 に示す選定基準に該当するものを重要な種として抽出した。

また、調査範囲に生育する可能性のある種を表 5.2.8.13 に示す文献資料から把握した。

##### ② 調査結果

###### ア. 重要な植物種

抽出の結果、文献資料に基づく種として、10 科 11 種が確認され、現地調査では、8 科 9 種が確認された。現地での確認位置を図 5.2.8.7 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.16(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.2.8.12 重要な植物の選定基準

選定基準 1	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号） 特：特別天然記念物 天：天然記念物 県：神奈川県指定天然記念物 市：平塚市指定天然記念物
選定基準 2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号） 内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種 緊：緊急指定種
選定基準 3	環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて—植物 I—（平成 19 年、環境省） EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準 4	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006（平成 18 年、神奈川県生命の星・地球博物館） EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 減：減少種 希：希少種 要：要注意種 注：注目種 DD：情報不足 DD-A：情報不足 A DD-B：情報不足 B 不明：不明種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準 5	地域環境評価（神奈川県環境部環境政策課）における神奈川県産学術的貴重種リスト 一：一級種 二：二級種

表 5.2.8.13 重要な植物の文献資料

番 号	文 献 名
①	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物
③	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」の中で平塚市に分布が確認されている種のうち、水田、畑地、湿地、河川等の環境に生育・生息する種
④	「自然環境保全調査報告書」（昭和 51 年、環境庁）の「貴重植物生育地調査表③関東地方」にあげられている種
⑤	「我が国における保護上重要な植物種の現状」（平成元年、(財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金）の中で「神奈川県」の項に示され、「絶滅危惧種」、「危急種」に選定されている種

表 5.2.8.14 重要な植物一覧（文献資料）

No.	分類	科名	種名 和名	文献					選定基準				
				①	②	③	④	⑤	1	2	3	4	
1	シダ植物	デンジソウ	デンジソウ			●		●				VU	VU
2	離弁花類	タデ	ヒメタデ			●						VU	CR
3		ミソハギ	ミズマツバ			●						VU	VU
4		ハマウツボ	ハマウツボ			●						VU	EX
5		キク	ヒメシオン			●							CR
6			カワラニガナ			●						NT	EN
7	単子葉植物	トチカガミ	ミズオオバコ			●						VU	EN
8		ヒルムシロ	ササバモ			●							VU
9		イバラモ	トリゲモ			●						VU	CR
10		ミクリ	ミクリ			●						NT	VU
11		カヤツリグサ	シロガヤツリ			●							EN
10科11種類				0種	0種	11種類	0種類	2種類	0種類	0種類	8類	11類	

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.12 参照。

表 5.2.8.15 重要な植物一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲									
		1	2	3	4	5	実施区域				実施区域の周辺地域					
							早春	春季	夏季	秋季	早春	春季	夏季	秋季		
ミズワラビ	ミズワラビ				NT	一					●					●
ミソハギ	ミズマツバ			VU	VU										●	●
ゴマノハグサ	カワヂシャ			NT				●					●			
トチカガミ	ミズオオバコ			VU	EN										●	●
ヒルムシロ	ササバモ				VU	二									●	●
	ヒルムシロ属の一種															●
	ホソバミズヒキモ				EN											
	イトモ			NT	VU											
イバラモ	サガミトリゲモ			VU	VU	一									●	
ユリ	アマナ				VU								●			
ミクリ	ミクリ属の一種												●	●	●	●
	ミクリ			NT	VU	一										
	ナガエミクリ			NT	EN											
	ヒメミクリ			VU	EN	一										
	ヤマトミクリ			NT	CR											
8科9種類		0種類	0種類	6種類	8種類	5種類	0種類	1種類	0種類	1種類	2種類	2種類	5種類	6種類		
							2種類				9種類					

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.12 参照。

表 5.2.8.16 (1) 重要な植物の確認状況及び一般生態

種名(和名)	項目	内容
ミズワラビ	確認状況	秋季調査において、実施区域の水田で2地点 100 株以上、実施区域の周辺地域の水田で2地点 200 株以上の生育が確認された。
	一般生態	本州(新潟県・関東地方以西)、四国、九州、沖縄に分布する。平野の水田や水路の岸に生育する一年生のシダ植物である。形の変化が著しく、小さいものでは数 cm、大きくなると 40cm 以上に達する。なお、神奈川県内では、湘南、小田原、三浦あたりの水田、低湿地に点々とみられる。
ミズマツバ	確認状況	実施区域の周辺地域の水田において、夏季に 200 株以上、秋季に 100 株以上の生育が確認された。
	一般生態	本州(中部地方以南)、四国、九州に分布し、水田や湿地に生育する1年草である。茎の高さは3~10cmと小型で、基部は分枝して地面を這う。葉は線形から長披針形、長さ6~25mmで柔らかい。花期は8~10月頃で、淡紫色の小さい花を葉腋に咲かせる。なお、神奈川県内では主に県央の沖積地に点在している。
カワヂシャ	確認状況	春季の調査において、実施区域の水路内で63株の生育が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水路内で1株、笠張川で46株、相模川で約200株の生育が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州、沖縄に分布し、田の畦や川辺、溝のふち等に生育する越年草である。草丈は10~50cmで、茎や葉は無毛で柔らかい。葉は対生し、長さ4~8cm、幅0.8~2.5cmの披針形~長楕円状披針形で、やや尖った鋸歯があり、基部は茎を抱く。葉腋から長さ5~15cmの総状花序を出し、3~4mmの小さな花を多数つける。花期は5~6月頃で、花冠は白色で淡紅紫色の条があり、4裂して皿状に開く。県内の河川には普通にみられる。
ミズオオバコ	確認状況	実施区域の周辺地域において、夏季に水田内で6株、秋季に水路内で1株の生育が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布し、水田や水路、溜め池等に生育する1年草である。茎は短く、葉は2列生、または2列斜生で根生するが、環境によって変化が大きい。花期は8~9月頃で、花弁の大きい白色~薄いピンク色の花を咲かせる。神奈川県内では県央を中心に沖積地~丘陵の水田にみられる。
ササバモ	確認状況	実施区域の周辺地域の相模川にかかる東海道新幹線の橋脚付近において、夏季に1株、秋季に3株の生育が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布し、湖沼や河川、用水路等に生育する多年草の沈水植物である。水中茎の全長は流れになびいて3.0mを超えることもある。葉は長楕円状線形~狭披針形で長さ5~30cm、幅1.0~2.5cmで長さ2.0~1.5cmの葉柄がある。花期は7~9月頃で、長さ2~5cmの花穂をつける。神奈川県内では相模川と酒匂川の下流域、川崎市の用水路を中心にやや稀に分布する。
ヒルムシロ属の一種	確認状況	実施区域の周辺地域の水路、排水路、笠張川河道内において、秋季に群落を形成しているのが確認された。
	一般生態	河川や水路等にみられる浮葉植物、または沈水植物である。葉は線形で尖頭であり、夏~秋季にかけて花穂を出す。確認された個体の形状から、イトモ、あるいはホソバミズヒキモであると考えられるが、殖芽がない状態では同定が困難であったため、ヒルムシロ属の一種(イトモ類)として扱った。
サガミトリゲモ	確認状況	実施区域の周辺地域の水田において、夏季に2株の生育が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州、沖縄に分布し、溜め池や水田に生育する1年草の沈水植物である。茎はよく分枝し、葉は長さ1.5~3.0cm、幅0.3~0.6mmで縁に細かい鋸歯がある。花期は7~9月頃で雄花と雌花があり、普通は別の葉腋につく。県内では県央を中心に沖積地~丘陵の水田に分布する。

表 5.2.8.16 (2) 重要な植物の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
アマナ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川の土手において、早春に 40 株以上の生育が確認された。
	一般生態	本州、(福島県以南・石川県以西)、四国、九州、奄美大島に分布し、丘陵地から山地に生育する多年草である。葉は線形で 2 個、花茎の下部につき、それ以下は地中にあるので根出葉にみえる。花茎は高さ 5～10cm、先に 1 花がつく。花期は 3～4 月頃で、日光を受けて開く。県内では畑の畦や土手、疎林内に稀にみられる。
ミクリ属の一種	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川において、早春及び春季に 1,000 株以上、夏季及び秋季に 1,500 株以上の生育が確認された。
	一般生態	河川、池沼等に生育する抽水性または浮葉性、沈水性の多年草である。茎は直立するか球茎状で、地下茎がある。葉は 2 列性で線形、全縁となる。花は単生で球状に集まった頭花を穂状または円錐状につける。県内には 4 種が現存している。花序のない状態では同定は困難であったため、ミクリ属の一種として扱った。

参考：平凡社「日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類」(昭和 57 年)

平凡社「日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類」(昭和 57 年)

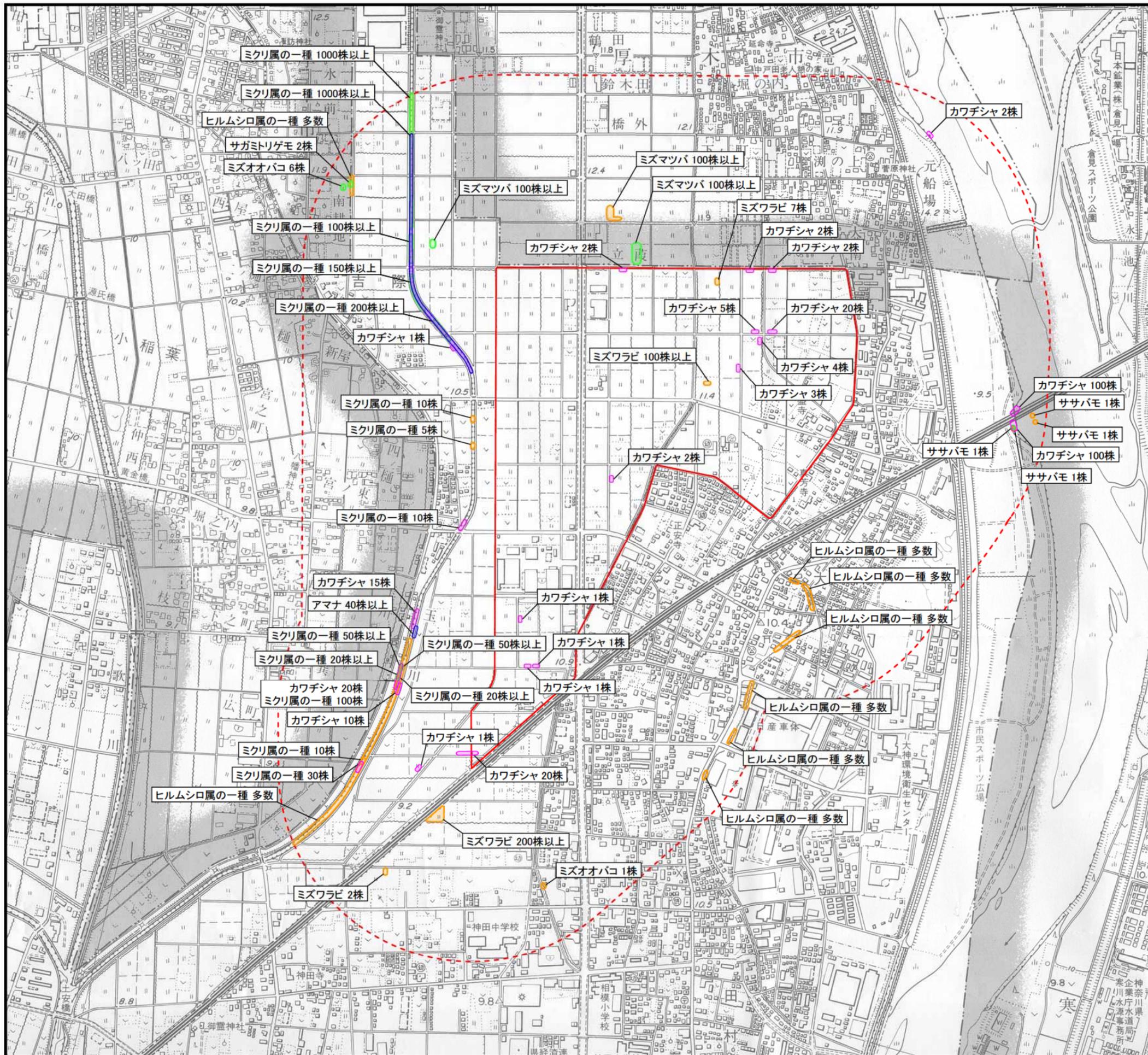
平凡社「日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類」(昭和 56 年)

文一総合出版「日本水草図鑑」(平成 6 年)

山と溪谷社「野に咲く花」(平成元年)

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県植物誌 2001」(平成 13 年)

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(平成 18 年)



凡 例

- 実施区域
- 調査範囲
- 確認位置 (早春)
- 確認位置 (春季)
- 確認位置 (夏季)
- 確認位置 (秋季)



Scale=1:10,000

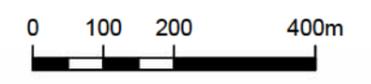


図5.2.8.7  
重要な植物の確認位置

## イ. 重要な植物群落

現地調査により確認された植物群落を対象に、表 5.2.8.17 に示す基準に該当する群落を、重要な群落として抽出した。

表 5.2.8.17 重要な植物群落選定基準

選定基準 1	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号） 特：特別天然記念物 天：天然記念物 県：神奈川県指定天然記念物 市：平塚市指定天然記念物
選定基準 2	第 2 回自然環境保全基礎調査 現存植生図（昭和 60 年、環境庁） A：植生自然度 10 該当群落 B：植生自然度 9 該当群落
選定基準 3	第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図（平成元年、環境庁） A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
選定基準 4	第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図（平成 7 年、環境庁）
選定基準 5	植物群落レッドデータブック（我が国における保護上重要な植物種及び植物群落研究委員会植物群落分科会 平成 8 年） A：緊急に対策が必要 B：対策必要 C：破壊の危惧
選定基準 6	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006（平成 18 年、神奈川県生命の星・地球博物館） A：植物群落レッドデータブック（神奈川県から報告のあるもの） B：特定植物群落

選定の結果、上記の選定基準に該当する群落として、表 5.2.8.18 に示す相模川の河辺植生が抽出された。植物群落の状況を表 5.2.8.19 に示すとともに、確認位置を図 5.2.8.8 に示す。

なお、調査地域においては、文献資料に示す貴重な植物群落は確認されていない。

表 5.2.8.18 重要な植物群落一覧

群落名	選定基準						調査範囲	
	1	2	3	4	5	6	実施区域	実施区域の 周辺地域
相模川の河辺植生					C	A B		●

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.17 参照。

表 5.2.8.19 重要な植物群落の状況

群落名	項目	内容
相模川の河辺植生	群落の状況	実施区域周辺地域の東側を流れる相模川の河川敷に、まとまった緑地が分布していた。 河川敷には小規模な落葉広葉樹林、竹林、メダケ群落等がみられ、またオギ等の高茎草本群落が相模川の両岸にまとまって分布しているのが確認された。

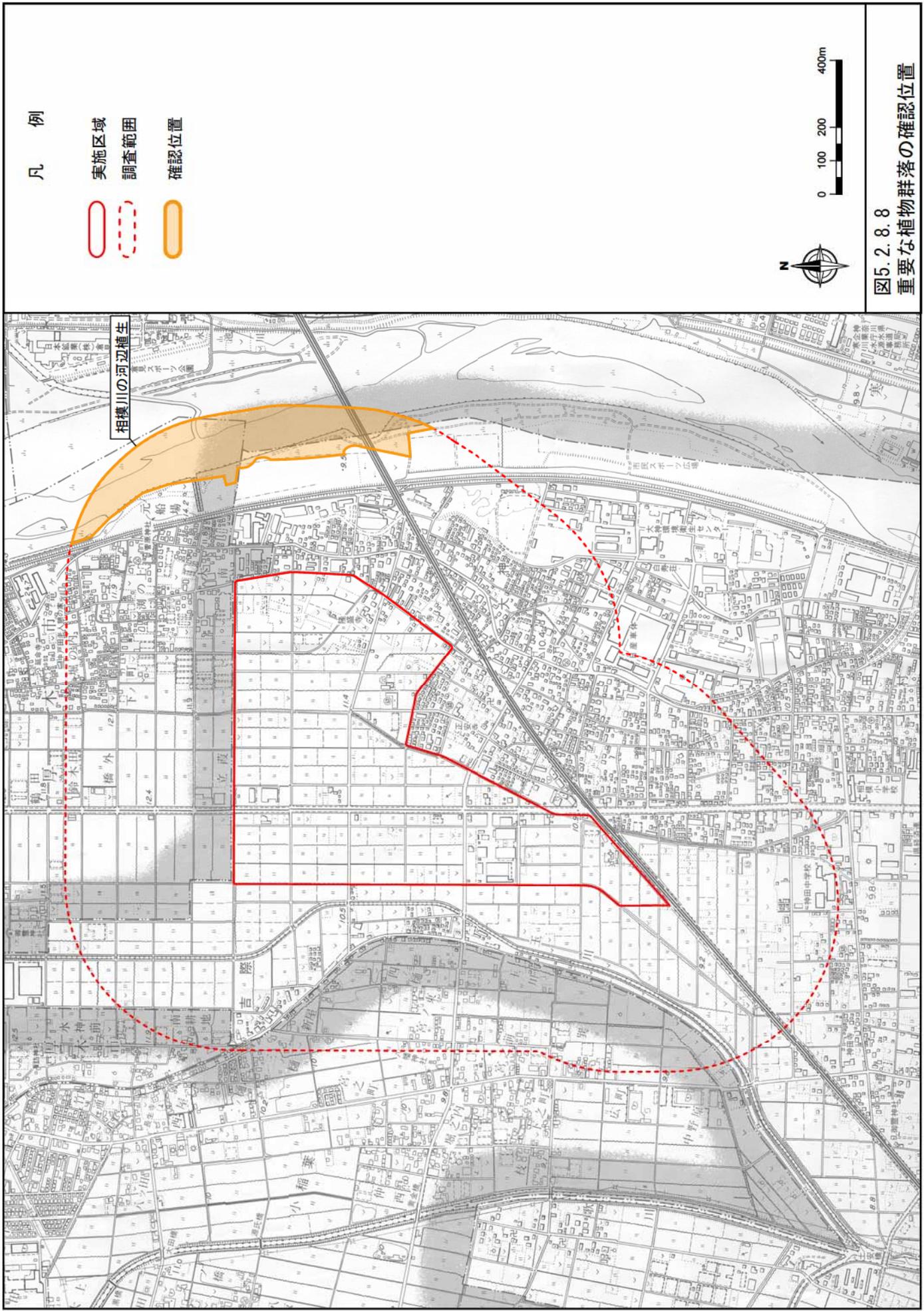


図5.2.8.8  
重要な植物群落の確認位置